

2013 年度 第 3 回
シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金
成果報告書

「第 28 回関西フランス語教育研究会における
國枝孝弘研究会研究発表」

総合政策学部 4 年 藤谷悠

1, 概要

フランス語教育を研究している國枝孝弘研究会にて、各自がこれまでに行ってきたそれぞれの個人研究の成果を、フランス語教育に携わる現場の教員や教育関係者たちが集う場である第 28 回関西フランス語教育研究会にて発表してきた。共通テーマとして「学生が自ら学ぶとき *Quand les étudiants apprennent à apprendre*」と題し、教室内・外における学習について多角的に発表を行った。それぞれの研究テーマは以下の通りである。

- ・ フランス語検定試験対策を行うホームページの作成
- ・ 日本語学習者とフランス語学習者の教え合い・学び合いの相互学習環境構築
- ・ ネットワークコミュニケーションツールを用いた単語学習の促進

2, 実施場所・実施期間

実施場所：

大阪市北区天神橋 2 丁目 2-11 阪急産業南森町ビル 9 階
アンスティチュ・フランセ関西

実施期間：2014 年 3 月 28 日（金）～ 3 月 29 日（土）

3, 成果報告

まず、開催日初日の 28 日には、SFC にてフランス語の授業を担当している先

生たちによる研究発表のアトリエである「評価」とあなた *Entre l'évaluation et « vous »*」に参加した。普段大学で教わっていた先生たちが何を思って教育の現場に立ち、どのような試行錯誤の基に教室という場を構築しているのかということをお聞きすることが出来た。これは自身が行ってきた学習成果の裏にある教員達の大きな支えを実感させるものであり、学習体験をメタなものとして捉え直す機会となった。

そして、二日目の 29 日に私たちの研究発表を行った。幸いなことに会場の席が満席になるほど大勢の先生たち、教育関係者の皆様にお越し頂くことが出来た。國枝先生のイントロダクションの後に、各々で作成した PowerPoint のスライドを用いて発表を行った。会場の皆様の反応も賑やかなものであり、質疑応答に至るまで、設定時間の最後まで盛り上がることとなった。学生目線から見た研究内容は教育者の側から見れば未熟な部分を残したものであったと思われるが、温かい目で発表を見守ってくださった上で、プロフェッショナルの立場からの貴重なご意見を下さった。

発表後に行われた懇親会では、日本全国から集まった先生たちとの交流を行った。学生として発表に参加したのは私たちのみであったためか、ここでも多くの皆様から反応を頂くことが出来た。私自身の発表である日本語とフランス語の相互学習環境の構築というテーマについては、高校で文通を用いた相互学習実践を行っている先生から、学生達の学習活動への参加の様子を詳細にお伺いすることが出来たので、今後の研究に繋がる出会いの場ともなった。

私たちが研究してきた教育の形を、教育というものを考え続けてきた皆様に披露して、それを批評して頂く。この体験は学生目線のみで築いてきた私たちの研究を研ぎすましてくれるものとなるだろう。これを糧に引き続き研究活動に励んでいく所存である。

